

とうかい食農健サポートクラブ 第21総会記念シンポジウム

“コロナ禍の2年をふりかえって！”

とうかい食農健サポートクラブでは、新型コロナウイルスの感染が広がり、緊急事態宣言等が発令される中、令和2年度、従来の集まって行うような活動を自粛してきました。令和3年度となり、ワクチン接種がすすみ、一旦は感染拡大が治まるかという状況もありましたが、年末にオミクロン株の感染が始まり、今年に入り大きく感染が広がっています。こうした状況の中、とうかい食農健サポートクラブは、食・農・健康に関わるネットワークとして、新型コロナの感染で健康が脅かされ、果たすべきことがあると幹事会で話し合いました。今回、まずは活動を自粛していたコロナ禍の2年の間に、会員が取り組んできたこと、考えてきたことをできる形で交流し、それぞれの立場で食・農・健康に関わる今の課題を、みんなで探っていきたいと考えシンポジウムを開催します。

●日時：令和4年3月6日（日）

午前の部 10時30分～12時

午後の部 12時50分～15時30分



●会場：コープあいち生協生活文化会館4階会議室

名古屋市千種区稲舟通一丁目1-39

地下鉄東山線本山駅下車4番出口より徒歩2分

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン参加のみでの開催又は延期させていただくことがあります。参加申し込みをいただいた皆さまには改めてご案内し開催しますのでよろしくお願い致します。

当日のスケジュール

10時30分 午前の部 開会

講演 「コロナ禍の2年を踏まえ、東海食農健サポートクラブの持続可能性を語る」
竹谷 裕之 氏（とうかい食農健サポートクラブ会長・名古屋大学名誉教授）

12時00分 午前の部 閉会

12時50分 午後の部 開会 「コロナ禍の2年をふりかえって」報告

小川宣子氏 「『中部大学 健康保全教育研究センター』の活動紹介ー食文化ユニットを中心としてー」

向井忍氏 「20年間の社会環境の変化と消費者意識の変化～生協組合員の生活意識調査の結果から」

江本行宏氏 「コロナ禍とあいちの農業」

大平峰雄氏 「むらとの新しい関わり方」

吉野隆子氏 「10年後、20年後に、私たちが食べるお米や野菜をつくってくれる農家はいるの？」
質疑・交流

15時30分 終了

参加は一部のみの参加でも結構です。

※講演・報告についての内容は裏面で紹介いたします。

シンポジウム終了後にとうかい食農健サポートクラブ総会を開催予定です。

とうかい食農健サポートクラブ事務局 担当：大島・伊藤

（特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター内）

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315 E-mail: AEL03416@nifty.com

主催：とうかい食農健サポートクラブ

参加申し込み要領は次ページ

とうかい食農健サポートクラブからの紹介企画

●午前の部 講演 「コロナ禍の2年を踏まえ、東海食農健サポートクラブの持続可能性を語る」

竹谷 裕之 氏（とうかい食農健サポートクラブ会長・名古屋大学名誉教授）

食・農・健康をキーワードとして、参加しつながらネットワーク組織である東海食農健サポートクラブは、結成 22 周年を迎えます。しかしここ 2 年間はコロナ禍、今まで作ってきたお互いの関係性が崩れかねない事態に直面しています。この厳しい環境下、いかに乗り越え、より豊かな関係性構築に向け、新たな一歩を作り出すか、切り口を次の3つに柱立てし、考えてみます。

1. コロナ禍の2年
2. 東海食農健サポートクラブが取り組んできたこと、次にどう繋げるか
3. 時代のキーワードを探り、世代間の交流も含め、サポートクラブの多様なネットワークを活かし、人的交流・情報交換する意義は大きい

●午後の部 「コロナ禍の2年をふりかえって」報告

小川 宣子 氏（中部大学客員教授）

『『中部大学 健康保全教育研究センター』の活動紹介—食文化ユニットを中心として—』

中部大学は環境保全教育研究センターを2021年7月1日に設立した。設立目的は①環境保全のための研究と教育 ②地域連携（環境保全東濃5市連携拠点） ③JICAプロジェクト（草の根技術協力事業）、環境省プロジェクトなどの受け入れ、であり、実践にあたっては5つのユニット（野生生物 保全と共存、ゼロエミッション社会実現、里山文化伝承、食文化、農業・林業再生）から構成されている。コロナ禍のなかであったが、2021年度内の活動開始を目指してきた。今回は「食文化」ユニットが行っている伝統食・行事食などの伝承や食育活動を紹介する。

向井 忍 氏（特定非営利活動法人地域と協同の研究センター専務理事）

「20年間の社会環境の変化と消費者意識の変化～生協組合員の生活意識調査の結果から」

とうかい食農健サポートクラブが発足して20年に、社会の人口動態・雇用と所得・国際的な人の移動・情報手段なども劇的に変わっています。日本生協連が3年に一度実施している「全国組合員意識調査」の結果をもとに、上記のような社会環境の変化が消費者（生協組合員）の「食・農・健康」等への意識にどのように反映しているかを、2000年、2009年、2021年の調査結果をもとに辿ります。それが新型コロナ下でどのように顕在化しているか、これからのつながりを考える留意点は何かについて報告します。

江本 行宏 氏（愛知県農業水産局食育消費流通課）

「コロナ禍とあいちの農業」

2年にわたるコロナ禍は、愛知県の農業にどんな影響を与えたのか？ あいちの農業界はコロナ禍にどう対処してきたのか？ そして、この2年であいちの食と農を巡る状況はどう変わり、ポストコロナに向けてどう対応していくのか？

皆さんが今後の食と農に向き合い、実践していく上での一助になれば幸いです。

大平 峰雄 氏（一般社団法人農山漁村文化協会東海北陸近畿支部）

「むらとの新しい関わり方」

農業書出版社の営業担当として農家に関わっている立場からお話します。標題について、兼業・多業農家、半農半 X、グループ帰農などの新しい暮らし方の模索事例を中心に、雑誌「現代農業」「季刊地域」の記事を元にご報告します。国の政策の変化や100年前の社会変動との比較についても少しお話し出来ればと思います。

吉野 隆子 氏（オーガニックファーマーズ名古屋）

「10年後、20年後に、私たちが食べるお米や野菜をつくってくれる農家はいるの？」

有機農業で新規就農したいと望む人たちが新規就農した人たちのサポートをすることを目的に、オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村というファーマーズマーケットを運営して17年が経過した。昨年、就農相談に訪れた人は30人。全員が農家になることはあり得ないが、それでも毎年数人は研修を経て農家として独立していく。新規就農支援を通して実感している就農や農業の現状について伝え、厳しい現状を共有していただく機会にできたらと願っている。

とうかい食農健サポートクラブ総会記念シンポジウム参加申し込み

●申し込み方法：E-mail、FAX、又ははがきで、下記の必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

●申し込み期限：令和4年3月3日（木）

※下記E-mailアドレスを記入し申し込みいただいたみなさんへ、Zoomでの参加に必要なご案内もいたします。

●問い合わせ：とうかい食農健サポートクラブ事務局

名古屋市千種区稲舟通1-39 NPO法人地域と協同の研究センター内 担当：大島・伊藤

電話052-781-8280 FAX052-781-8315 E-mail: AEL03416@nifty.com

名前（ふりがな）	電話番号	住所（参加票送付先）	E-mailアドレス
名前（ふりがな）		〒	

◆お知らせいただいた個人情報につきましては、今回の企画運営に関わってのみ使用いたします。